

に詳しいが、進貢に必要不可欠の人員は時代を問わず一定であつたと思われるからである。なお同論文付録史料も参照のこと。

右の符文は正議大夫程鵬・都通事蔡斉等に付し、^②これに准ぜしむ
進貢等の事符文

注*この入貢については『明実録』成化六年二月辛未、四月庚戌の条に記事がある。

1-23-03

国王尚徳の、進貢のため正議大夫程鵬等を遣わす符文

(一四六九、八、一五)

琉球王中山王尚徳、見^げに進貢等の事の為にす。

今、特に正議大夫程鵬を遣わし、同差の長史梁賓・使者安遠路等と、表文一通を齎捧せしむ。及び徳字号海船一隻に坐駕して馬一十五匹・硫黄二万斤を装載し、京に赴き進貢し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の諭遣を承くれれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開^しす 赴京の

正議大夫一員 程鵬

使者三員 明泰 埜麻志 物志麻

都通事一員 蔡斉

人伴二十一名

国王附搭の蘇木五千斤・胡椒一千五百斤・番錫五百斤

成化五年(一四六九)八月十五日

1-23-04

世子尚円の、謝恩のため長史蔡璟等を遣わす符文

(二四七〇、九、七)

琉球国中山王世子尚円、見^げに謝恩等の事の為にす。

今、特に長史蔡璟を遣わし、同差の使者吳司馬・実奇那及び王達魯等と、共に表文一通を齎捧せしむ。及び智字号海船一隻に坐駕し、馬一十五匹・硫黄二万斤・鍍金銅結束紅漆靴鞞腰刀二把・鍍金銅結束黒漆靴鞞鞞腰刀二把・鍍金銅結束紅漆靴鞞鞞腰刀四把・象牙四百斤・束香二百斤・胡椒四百斤を装載し、京に赴き謝恩し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の諭遣を承く

れば、途に在りて遅滞し便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

長史一員 蔡璟

使者三員 吳司馬 益周間 宋璧

通事一員 梁応

人伴二十一名

国王世子附搭の蘇木六千斤・番錫五百斤・胡椒一千斤

成化六年（一四七〇）九月初七日

右の符文は長史蔡璟・通事梁応等に付し、此れに准ぜしむ

謝恩等の事 符文

注*この入貢については『明実録』成化七年三月甲申、三月戊戌の条に記事がある。

1-23-05

国王尚円の、謝恩のため正議大夫程鵬等を遣わす符文

（一四七二、九、二八）

琉球国中山王尚円、見けんに謝恩等の為にす。

今、特に正議大夫程鵬等を遣わし、表文一通を齎捧し、及び徳字号海船一隻に坐駕し、馬一十五匹等の物を装載し、京に赴き謝

恩し、仍お礼部に赴き告稟して進取せしむる外、茲の諭遣を承くれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開す 赴京の

正議大夫一員 程鵬

使者三員 明泰 勿志滿 馬嘉比

通事一員 蔡璋

人伴二十一名

国王附搭の蘇木八千斤・番錫一千斤・胡椒一千斤

成化八年（一四七二）九月二十八日

右の符文は正議大夫程鵬・通事蔡璋等に付し、此れに准ぜ

しむ

符文

注*（一七一八）によれば同じ日付で王舅武実・長史李榮・使者明泰等を寿字等号海船二隻で派遣したとの記事があるが、正議大夫程鵬の名は見えない。

1-23-06

国王尚円の、進貢のため長史蔡璟等を遣わす符文

（一四七三、九、三）

琉球国中山王尚円、見けんに進貢の事の為にす。